《Eternal》2021年 油彩・キャンバス 72.7×91.0㎝

イベント情報

毎日開催！ライブペイント

約4か月間の会期中に長瀬智之が英国の王室騎兵隊“Household Cavalry”をテーマにした大作を描き上げます。白いキャンバスに少しずつ騎兵隊が現れる様子を間近でご覧いただけます。

場所：馬の学び舎・ミュージアムホール
時間：開館時間に準じる　　申込：不要
※都合によりご覧いただけない場合がございます

◎新型コロナウイルス感染拡大防止のため開催内容が変更になる場合があります
◎会期中展示作品の入れ替えを行います
◎東京競馬開催日〔4月23日（土）から6月26日（日）までの土曜・日曜〕のご来館には、東京競馬場指定席または入場券の事前予約が必要となる可能性があります

王室騎兵隊への想い

私は2008年に渡英し、初めて彼らに出会った。
日本でも数多くの馬に会ってきた私が、彼らの何に惹かれたのか、未だに明確な答えは出ていない。
ホースガーズで目の当たりにした黒馬たちの気高く悠然たる姿。彼らの穏やかな眼差しや鼓動、肌の温もりを静かに感じていると、画家として得も言われぬ想いが溢れ出てきた。この荘厳な隊列から伝わる馬と人間との厚い信頼関係、それは騎馬隊として共に歩んできた長い歴史に培われたものだろうか。
彼らのゆったりとした息遣い、多頭で奏でる蹄音、馬具や装飾金具の擦れあう音、私はそれらの一つ一つを鮮明に記憶している。
英国からの帰路、機上でキャンバスに映る彼らの姿が作品となっておりてきた。
彼らの等身大の姿を描き残したいという想いは、あれから十数年経った今でも衰えるどころか、より熱くたぎっている。
このたび、積年の夢を実現できる機会をいただき、関係各位に心より御礼申し上げます。

ライブペイントへ寄せて

私は、四半世紀にわたり馬を専門に描いてきた者として、画家が実際に作品を描いている姿を、多くの方々にライブでご覧いただきたいと思っている。
なぜならば、私も国内外の馬にかかわる数多の芸術作品を鑑賞し、そこから多くの学びを得、そして多大な刺激や影響を受けてきたからである。
約4か月にわたり日々完成に近づいていく作品から、あの日私が感じた彼らの息遣いや、馬具の鳴る音を感じていただけたならば大変嬉しく思う。
さらには、私がキャンバスの中の馬たちに命を吹き込む姿を見て、自分も馬を描いてみたいという方が一人でも多く現れたなら、馬の描き手としてこの上ない喜びである。
また、このような活動が、少しでも日本における馬の文化芸術の発展に寄与できれば大変光栄である。

長瀬 智之

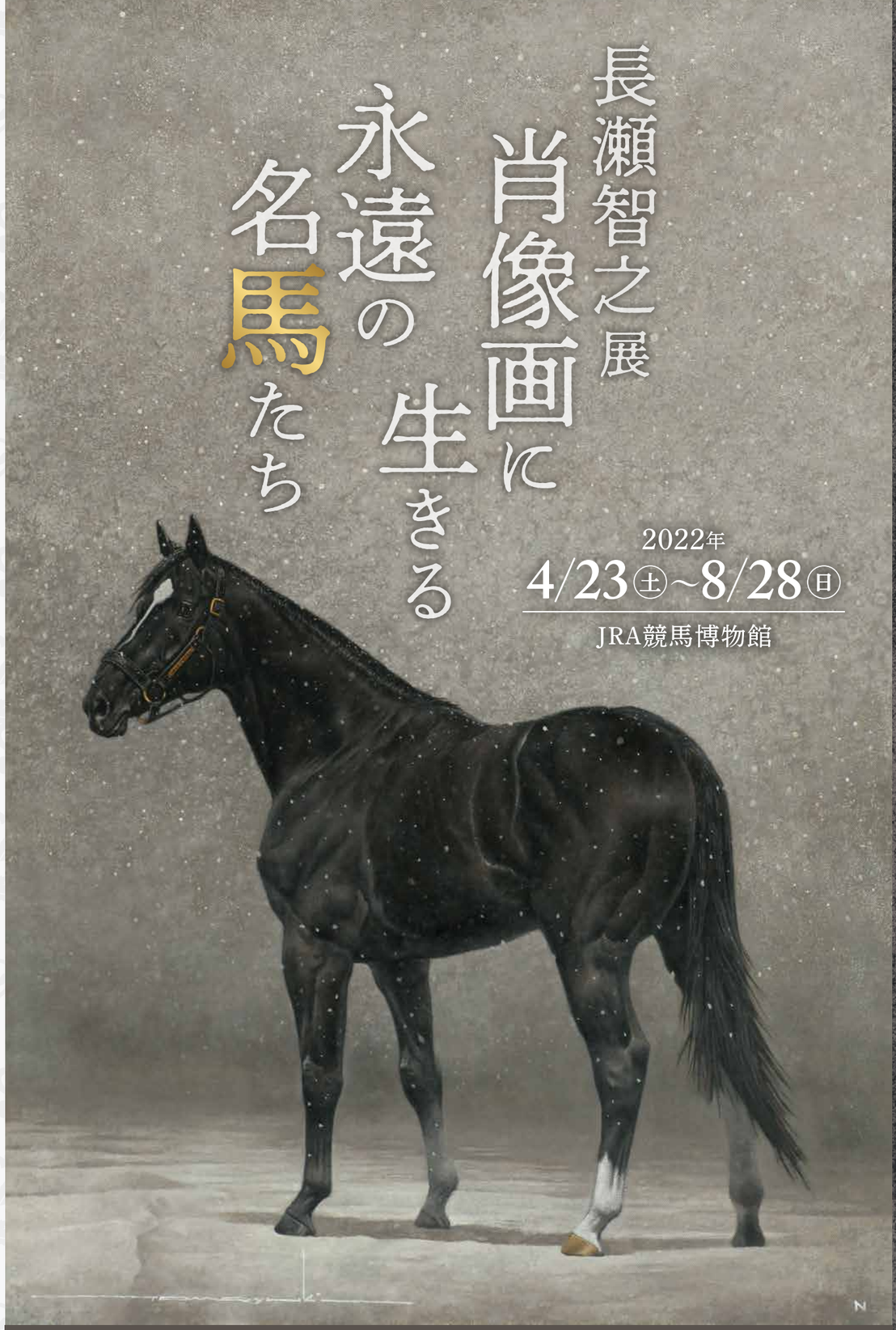
JRA競馬博物館

〒183-8550　東京都府中市日吉町1-1
JRA東京競馬場内
TEL：042-314-5800
https://www.bajibunka.jrao.ne.jp/keiba/
交 通：○京王線　東府中駅から徒歩約10分
府中競馬正門前駅から徒歩約7分
府中駅から徒歩約18分
○JR南武線・武蔵野線　府中本町駅から徒歩約18分
○西武多摩川線　是政駅から徒歩約20分

長瀬智之展 肖像画に生きる 永遠の名馬たち

特別展

2022年
4/23㊏～8/28㊐
JRA競馬博物館



《孤高》（モデル馬：ハーツクライ）2021年　油彩・キャンバス　91×60.6cm　©Tomoyuki Nagase

開館時間：10：00～17：00 中央競馬開催日
10：00～16：00 その他の日（東門のみ開放）
休 館 日：月・火曜日（祝日は開館し、直後の平日を休館）
※6月29日（水）～7月8日（金）は館内整備のため休館

入 館 料：無料（ただし東京競馬開催日は、競馬場への入場料が必要）
主　　催：公益財団法人馬事文化財団
協　　力：厩UMAYA、蹄跡

JRA Racing Museum

特別展

長瀬智之展 肖像画に永遠の生きる名馬たち

《The greatest of the sire lines》
2019年　油彩・キャンバス
89.5×218.7㎝

三代にわたる偉大な血脈を表現した作品。作家はクールモアスタッドを訪れ、Sadler's Wells（中央）とGalileo（左）の父子に対面。当時Sadler's Wellsは種牡馬を引退した直後であり、その表情は穏やかな安らぎに包まれていた。一方で、いまだ張り艶のある馬体は迫力に満ち、一時代を築いた種牡馬としての粛然たる佇まいに圧倒されたという。偉大な父から役割を受け継いだGalileoは、種牡馬としての勢いそのままに、溌剌かつ精悍で、己に課せられた使命の重さを知る王者の風格漂う目をしていた。そして、さらにその後継となるFrankel（右）には、未だ逢うことが叶えられていない。そのため、その姿は未完成のままである。英国の至宝Frankelに想いを馳せ、偉大な血脈を描き残したいという作家の願いのこもった作。

ご挨拶

長瀬智之（1961年生まれ）は、日本では珍しい馬専門の油彩画家です。1998年のデビュー以来、一貫して馬をテーマに制作を続けてきました。長瀬の描く馬は、たてがみの一本一本に至るまで繊細な美しさを湛え、肖像画でありながらも馬の温かさや息遣いが感じられるような生命感に満ちています。

こうした絵画が描かれる過程には、画家のこだわりがあります。それは、モデルとなる馬がいる場所へ赴き、直接対面することです。これまでに北海道の馬産地はもとより、イギリスやアイルランドにも足を運び、数多くの名馬に出会ってきました。対面することによって、写真ではわからない馬の雰囲気や厩舎の風景、関わる人たちの想いなど様々な背景を知ることができ、より馬の描写にリアリティが生まれるのです。

本展は、これまでに描いてきた名馬たちの肖像画や素描作品をはじめ、五冠馬であるシンザン、シンボリルドルフ、ディープインパクトを一枚に描いた最新作を含む、絵画作品約70点をご紹介する画家自身初の大規模個展です。また、会期中に展示室内で自身のライフワークである黒馬で構成される英国の王室騎兵隊“Household Cavalry”の大作に挑みます。これは十数年前からの画家の構想がようやく実現するものです。巨大なキャンバスにどのような騎兵隊が現れるのか、ぜひ画家の大仕事にもご注目ください。

主催者

《素描》
2021年　鉛筆・紙　17.1×23.2㎝

《Clydesdale》
2009年
油彩・キャンバス
60.6×91.0㎝

《Colt》
2020年　油彩・キャンバス　22.7×15.8㎝

《Secretariat》2019年　油彩・キャンバス　60.6×72.7㎝

長瀬 智之
Tomoyuki Nagase

1961年福岡県生まれ。1979年に同志社大学へ入学、同大ラグビー部で史上初大学選手権3連覇達成の一員として活躍。卒業後イラストレーターを経て、1998年画家へと転身。競走馬をモチーフに作品を手がけ、2000年より北海道での長期滞在を恒例化し、牧場にて馬と共に生活。サンデーサイレンスを始め数多くの名馬と出会い作品を生み出す。2008年にはアイルランドと英国を訪問、世界最高峰と称される名馬サドラーズウェルズと邂逅、長年の夢を果たす。英国では絵画や騎馬隊などの馬事文化に触れ、芸術的視野を広める。さらに馬の絵画で世界的に評価を得ている王室画家、スーザン・クロフォード氏に師事。2009年には米ロサンゼルスへ馬の画家として国際的に知られている巨匠フレッド・ストーン氏を訪ね、師事。2012年には英国Olympia Horse Showに日本人で初めて出展し海外での作品発表を果たす（2019年に2度目の出展）。2014年、JRA60周年記念「サラブレッドの美しさ」絵画コンテスト金賞受賞。2017年、日本初の馬専門ギャラリー厩UMAYAをオープン（現在は移転に伴い休廊中）。2019年、JRA競馬博物館「競馬の殿堂」へ顕彰馬ロードカナロアの肖像画を納め、続いて2021年に顕彰馬キタサンブラックの肖像画を納める。